



浪高だより

Aomori Pref. Namioka High School

第7号 令和4年7月20日(水)発行

〒038-1311 青森県青森市浪岡大字浪岡字稲村 101-2

TEL 0172-62-4051(代表) fax 0172-62-1556

<http://www.namioka-h.asn.ed.jp/>



令和2年10月10日(土)
創立90周年記念式典挙行

『全校遠足 浅虫水族館・ねぶたの家ワ・ラッセ』7月4日(月)

5月に予定していた遠足ですが、新型コロナウイルス感染症対策のため7月4日(月)に延期して実施されました。「浅虫水族館」と「ねぶたの家ワ・ラッセ」の2ヶ所の施設見学をし、生徒が楽しみにしていた全校遠足が3年振りに行われました。浅虫水族館ではイルカショーを楽しみ、ワ・ラッセではハネト体験をしました。青森市内の自由散策の時間もあり、友達との楽しい時間を過ごせた一日となりました。



第48回浪岡地区安全・安心まちづくり合同パレード・・・6月25日(土)

6月25日(土)(無事故の日)に、交通事故及び犯罪の防止、青少年健全育成の推進並びに火災予防等に対する意識高揚を図るために、警察・消防・商工会議所等合同でパレードを行いました。本校では、JUMPチームや応援団などがパレードに参加しました。防犯や事故等への意識を高める機会となりました。



全校一斉 『空き缶壁画活動』・・・その3

7月12日(火)



「浪高だより」は、本校HPに掲載しています。浪岡高校公式YouTube「浪高チャンネル」も視聴よろしくお願いします。



令和4年度 全国高等学校野球選手権青森大会 開催



青森西	1	0	0	8	0	4			13	6回コールド*
6校連合	1	0	1	0	0	0			2	



令和4年度全国高等学校野球選手権青森大会が7月8日から開催されました。本校は今年度、六戸・六ヶ所・野辺地・浪岡・松風塾・板柳の6校連合（浪岡2人）としての参加となりました。10日（日）に行われた大会では、今年度も新型コロナウイルス感染症対策のため観戦者が少ない中での開催となりました。

試合は、六戸メイプルスタジアムで青森西高校と対戦しました。初回青森西高校が先制しましたが、裏には1点取り返しました。そして、3回には逆転に成功しチームは大いに盛り上がりました。しかし、4回に8点、6回に4点取られ、結果2-13で6回コールド負けになりました。唐牛君（3年生）や坂本君（1年生）は、初回からコーチャーとして大きな声を出して活躍しました。限られた環境での連合チームでしたが、週末の合同練習で徐々に絆を深め戦いに挑み、応援していた関係者に大いに感動を与えてくれました。

ネットリスク教室（全学年）・・・7月6日（水）

子どものネット・スマホの長時間接触による健康被害が近年問題となっています。ネット依存の状況や睡眠への影響など、健康被害を知るとともに、健康に配慮したネット・スマホの使い方について考えるために、ネットリスク教室が開催されました。子どものネットリスク教育研究会青森支部副支部長 内山 陽子 氏を講師に迎え、「ネットやスマホを使いすぎないようにするために ～考えよう！アナログ生活のメリット・デメリット 見つめよう！自分の使い方～」という演題で、生徒へのアンケート結果も含めての講演になりました。スマホ等の使い方について考える機会となりました。



性教育講話（全学年） 7月13日（水）

自己の性について認識を深め男女がお互いを尊重して生活する態度を育て、「生命と性」について正しい知識を得ることによって命の大切さを学ぶことを目的に性教育講話が行われました。

あおり女性ヘルスケア研修所 所長 蓮尾 豊 氏を講師に迎え、「大切にしたい自分の心と体」という演題で講演をしていただきました。

SNSで注意すること、予期せぬ妊娠や性感染症の予防、女性活躍のために必要な月経に関する知識、LGBTQを含めた多様性の理解、性的同意の重要性などについて多くのことを学び、考えを深める機会となりました。



薬物乱用防止教室（1学年） 7月7日（木）

青少年の薬物乱用問題は、中高生の覚せい剤事犯検挙人数が依然として高水準で推移していることや危険ドラッグの乱用拡大などが懸念され、極めて深刻で憂慮すべき事態が続いていることを踏まえ、薬物に対する正しい知識や乱用の危険性を理解させ、高校生における薬物事犯の防止を破格目的で、薬物乱用防止教室が1年生を対象に行われました。

青森県学校薬剤師会 畑井 俊一 先生を講師に迎え、薬物の体への害について詳しく説明を受けました。アルコールやたばこに手を付けていると、このくらいならちょっとなら大丈夫という油断から、薬物に手を付けるきっかけになることなど、薬物の害を知り、危険性を理解し、薬物には手を出さないという意識を高める良い機会となりました。

